

遊鶏の賦

清原啓一

2007年 4月5日(木)ー5月20日(日)

主催／渋谷区立松濤美術館

開館時間／午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)

休館日／4月9日(月)、16日(月)、23日(月)、5月1日(火)、7日(月)、14日(月)

入館料／一般300円(240円)、小中学生100円(80円)

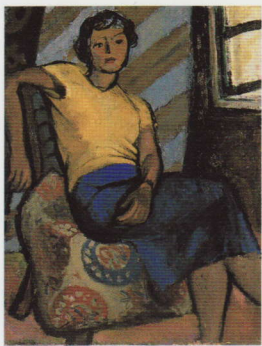
※()内は10名以上の団体料金。60歳以上の方および障害者の方は無料、毎週土曜日は小中学生無料

講演会／4月21日(土)午後2時より

「清原啓一の芸術」富山秀男(美術評論家)

K E I C H I
K I Y O H A R A

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART



《椅子による女》 1952年



《鼎立》 1978年



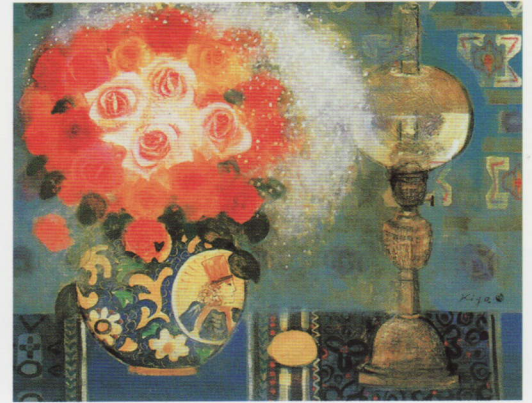
《グラスのカトレア》 1991年



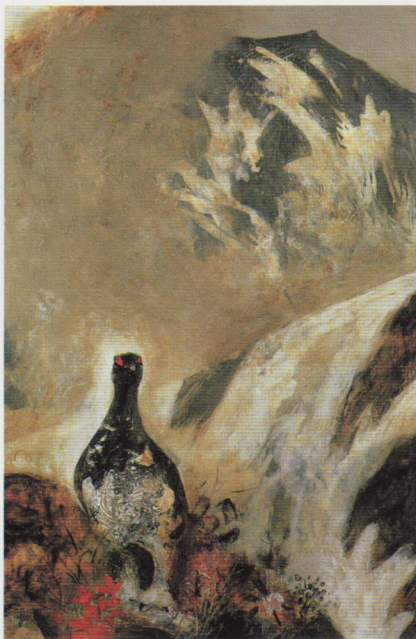
《紅庭に遊ぶ》 2004年



《樹間浅間》 2004年



《花とランプ》 1986年 富山第一銀行蔵



《雷鳥》 1982年 富山県立近代美術館蔵



《秋色遊鶏》 1986年 富山県蔵

清原啓一氏は1927（昭和2）年、富山・砺波市に生まれ、富山師範学校、明治大学を卒業されたのち、光風会や日展をおもな発表場所として創作活動をつづけてこられました。数々の受賞を重ね、日本芸術院会員、日展常務理事、光風会常務理事をつとめられるなど、今日の洋画壇の実力者として活躍されておられます。

氏は1954年の日展にはじめて鶏を題材にした作品を出品したのち、1964年には同展で《群鶏》が特選になるなど、鶏の画家として評価と名声を得ました。その作風は、横溢する鮮やかな季節感がながれるなか、闘う鶏や遊ぶ鶏の姿態が情感豊かに表現される独創的なものです。重厚なマチエールや艶やかな色彩による装飾性が際立っているのも特色で、その表現は油彩画でありながら花鳥画的な画趣があり、まことに希有なものと言えるでしょう。また近年は、故郷富山の剣岳や信州浅間山などを描き、山岳シリーズにも力を入れておられます。

本展は代表作となった鶏のシリーズを中心に山岳シリーズや花の作品など、初期の作品から最新作まで50余点の代表作で構成し、清原啓一氏の60年におよぶ画業をたどる集大成となる展観です。

講演会

4月21日（土）午後2時より
「清原啓一の芸術」 富山秀男（美術評論家）

ギャラリートーク

4月27日（金）午後2時より 担当学芸員
5月11日（金）午後2時より 担当学芸員

美術相談

4月28日（土）午後2時～4時
講師 水野道子（水彩画）
5月19日（土）午後2時～4時
講師 茂登山東一郎（洋画）

美術映画会

4月8日（日）午後2時より
名画の秘密シリーズ「オルセー美術館」
5月13日（日）午後2時より
名画の秘密シリーズ「パリの夜と夢」

次回予告

大辻清司 メディアとしての写真
見る 作る 語る 出会いとコラボレーション
6月5日～7月16日



渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14

TEL03-3465-9421

渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>